

科目名	社会調査統計	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 3 年次	
科目概要	授業内容	<p>社会調査を実施する能力を養成するための、官庁統計や社会統計として取り上げられることの多い基本的な項目・変数の学習、フィールドワーク論文が読めるための基本的知識の習得を目標にする。</p> <p>単純集計、度数分布、代表値、クロス集計といった記述統計データに関する結果の算出や数値の解釈を学習する。さらに、媒介関係や擬似相関、因果関係と相関関係といった、仮説検証手段で陥りやすい誤りについて習熟する。定量的変数の分析方法については、用いられることの多いt検定や分散分析、相関係数、重回帰分析の使用法ならびに使用上の注意点などをコンピュータを用いて実践的に習得させる。</p> <p>単に頭で統計解析の手法を理解するだけでなく、国勢調査データや模擬データを用いて、「何を知りたいのか」ということを念頭に置きデータのタイプによってどのような分析方法が有効なのかを自ら選択し活用できるように繰り返し実践させる。また、統計のみに頼らない社会的現実の理解の方法として、観察法やインタビュー記録を参照して、質的なデータ分析の方法も学ぶ。統計解析パッケージには SPSS を使用する。</p>
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPSS 統計パッケージを利用して、自分で定量的データの分析ができる。</li> <li>・社会調査のための変数設定や加工、分析結果の読解ができる。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の目的：社会調査についての、各種報告書を用いた概要説明</li> <li>(2) 社会調査で扱うデータの種類(1) 変数の性質質的(名義)変数と量的(数的)変数</li> <li>(3) 社会調査で扱うデータの種類(2) フェイスシートの構成(性別・年齢・居住形態、就業形態など)</li> <li>(4) 社会調査で用いられるデータ集計 データの数量化(度数分布、代表値(平均、中央値、標準偏差の意味))</li> <li>(5) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(1)クロス集計とカイ 2 乗分析 残差の見方</li> <li>(6) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(2)多重クロス集計とエラボレーション(1)</li> <li>(7) 社会調査で用いられるデータ解析：質的変数の分析(3)多重クロス集計とエラボレーション(2) コレスポネンズ分析</li> <li>(8) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(1)T 検定と分散分析</li> <li>(9) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(2)相関係数</li> <li>(10) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(3)回帰分析、重回帰分析 1</li> <li>(11) 社会調査で用いられるデータ解析：量的変数の分析(4)回帰分析、重回帰分析 2</li> <li>(12) 社会調査のレファレンスとされる統計の種類 国勢調査、人口動態統計、学校基本調査、労働力調査、就業構造基本調査などの「指定統計」の種類と内容の理解</li> <li>(13) 47 都道府県の姿を知ろう 国勢調査データを用いて、これまで習った手法で日本のデモグラフィックな動向の加工・分析を行う。</li> <li>(14) 47 都道府県の姿を知ろう 統計から見える産業・就業構造の国勢調査データを用いて、これまで習った統計手法で加工・分析を行う。</li> <li>(15) 統計に頼らないリアリティ フィールドワーク論文の読み方 ドキュメント分析の方法</li> </ol>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「参考文献」を前もって読んでよくと理解しやすくなります。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Moodle の課題を遂行すること。また、SPSS の操作は授業時間外にコンピュータ室で練習しておくこと。</li> </ul>
使用教材・参考文献	<p>【教】 特に使用しない。授業中でハンドアウトを配布する。</p> <p>【参】 内藤統也(監修)、秋川卓也(著)『文系のための SPSS 超入門』プレアデス出版 4-7687-0863-3 岸学(著)『SPS(によるやさしい統計学)』オーム社 4-274-06620-7</p>	
成績評価方法と基準	<p>授業で扱った変数の種類に応じた分析や検定方法を選択して、SPSS の出力結果が意味するところを解釈できると認められれば合格とします。</p> <p>試験 70%、受講態度 20%、演習中に出される課題遂行 10%</p>	
備考		